

国語 第4学年 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。謎解きを楽しむだけの授業にならないか。

返し: 中心はC(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」。謎解きは、離れた場面の叙述を結び付ける必要を子どもに感じさせるための入り口で、本時の評価は答えの当否ではなく、叙述を結び付けて関係の変化を想像しているかで見える。合わせて(3)オとC(1)カを評価する。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見えるのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第7時の紹介カードと発言、思考・判断・表現①は第4時のワークシートと第5時の文章、②は第6時と第8時の話し合い、態度①は第1時の初発の感想と第8時の振り返りで見える。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: C(2)イ「詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」。おもしろいと思ったところを、結び付けた叙述を挙げて文章に書き、グループで話し合う。第6時の話し合いは、A(1)オの「互いの意見の共通点や相違点に着目して」を使う。

指摘 4: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 読むのが苦手な子には、手がかりの叙述を先生が書き写したカードを渡し、並べ替えて結び付けることから始めさせる。書くのが苦手な子には、まとめの文の型を板書で示す。早く終わる子には、「ぼく」の推理に入っていない手がかりを探させる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5: ICTは使わないのか。

返し: 二つ想定している。手がかりカードを端末の共有の画面に置き、矢印で結んだ図を班ごとに見せ合うこと、第7時に並行読書の本の紹介を端末で見せ合うこと。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ紙のカードと模造紙で同じ活動ができる。

指摘 6: 推理の答えを先生が教えてしまってよいのか。答えは一つに決まる物語ではないのか。

返し: 訳は物語の中で「ぼく」が語るが、それは「ぼく」の推理で、二人の関係がどこまで変わったかは子どもによって考えが分かれる。本時は答えを教えず、どの叙述を結び付けたかを比べる。考えの違いに気付くことは、第6時と第8時のC(1)カの評価場面になる。

指摘 7: 8時間は多い。時間が足りない。

返し: 8時間は光村図書出版の年間指導計画例の配当（読むこと8時間）に合わせた。削るなら、第2時と第3時を一時間にまとめ、第7時の並行読書の紹介を朝の読書の時間や学校図書館の時間と重ねる。並行読書は第3の1(6)にあるとおり学校図書館における指導との関連を考えて行えば、単元の時数を増やさずにできる。

指摘 8: 発問が多すぎないか。

返し: 本時の中心発問は「この手がかりは、前のどの場面のどの叙述と結び付きますか」の一つ。他は叙述を探す問いと、関係の変化をまとめる問いで、全体には中心発問だけを板書する。(3)オの読書に関する事項は、第3の1(3)にあるとおり、思考・判断・表現に当たる事項の指導を通して指導するので、本時に別の発問は立てない。

指摘 9: 板書はどう使うのか。

返し: 前時の「様子の変化の表」を右側に残し、中央で手がかりカードを前の場面のカードと矢印で結ぶ。矢印の横に分かったことを書く形は、C(1)エの「場面の移り変わりと結び付けて」を目に見える形にしたもの。関係の変化についての考えの違いは左側に並べて残し、消さない。

指摘 10：振り返りは何を書かせるのか。

返し：「叙述を結び付けて考えたこと」と「友達の考えで気付いたこと」の二つ。二つ目は、第6時以降のC(1)カの、感じ方の違いに気付く学習の準備になる。第3の1(1)の「主体的・対話的で深い学び」は、子ども自身が読み方の変化を書くことで確かめる。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第3学年及び第4学年〕2内容C読むこと(1)イ・エ・カと(2)イ、〔知識及び技能〕(3)オ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

